

# 檄

総選挙の勝利で立憲主義・民主主義を取り戻そう！！

—— 投票に行こうよ運動の徹底で、激戦を勝ち抜こう ——

立憲主義・民主主義・平和主義を取り戻す戦いが火ぶたを切った。

安倍首相は野党が憲法に基づき求めた臨時国会の早期招集を3ヶ月以上もたなざらしにした揚げ句、森友・加計学園問題などの追及逃れから「疑惑隠し」ともとれる臨時国会冒頭での解散は、正に「国権の最高機関を愚弄する行為」であり、解散権の乱用と言わざるを得ない。

安倍政権は2014年12月の衆議院選以降、集団的自衛権の行使容認の解釈変更からはじまり、2015年9月にはそれを具現化する「安全保障関連法」を数の力で成立させ、今年6月には共謀罪を参議院法務委員会での採決を省略し「中間報告」で成立させるという暴挙を行ってきた。

したがって、連合北海道は、この解散総選挙を連合がめざす「働くことを軸とする安心社会」の実現、そして「安倍政権の暴走を許す『一強多弱』の政治をSTOP」をさせる千載一遇のチャンスと捉え、連合北海道推薦候補者11人全員の当選に向け全力で取り組むとともに、「比例北海道ブロック」の対応にあたっては、  
(1) 連合北海道としては、立憲民主党「通称：民主党」を基本とした取り組みを求める。(2) ただし、取り組みにあたっては選挙区の候補者の状況・各構成産別の判断などを十分配慮し、産別、地協・地区連合、退職者組織の総力を挙げて戦いを進めることを確認し、今次総選挙を全力で戦う。

しかしながら、その道のりは簡単ではない。いま、連合北海道の推薦候補者は横一線の状況にある。そのためこの戦を抜け出すには、短期決戦の中において組合員による総行動によりいかに組織固めと棄権防止の取り組みを最後までやりきるかにかかっている。

今回の総選挙は、今後のわが国のあり方を決める重要な戦いである。今こそ連合北海道組合員と市民が連携し、安倍一強政治に終止符を打つために立ち上がろう。

2017年10月10日

連合北海道 会長 出村 良平